

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山県岡山市立福田小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒701-0203 岡山県岡山市南区古新田1095

E-mail : fukudas@city-okayama.ed.jp

Website : www.city-okayama.ed.jp/~fukudas/

児童生徒数：男子406名 女子365名 合計771名
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域の歴史的文化遺産）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

< 全体計画 >

「地域社会の持続性向上」と「地球環境の改善を目指す環境学習」を通じて、子どもたちに未来を生き抜くために必要な資質や能力・技能を身に付けさせる。



< 各学年の活動 生活科・総合的な学習の時間 (かがやき) >

第1, 2学年 「ふれあい秋ランド」「昔あそび」

1年生では、自分たちで探してきた木の実、葉っぱなどを使って、地域の名人さんに作り方を教えてもらい、自分だけのたった一つの作品を製作した。風車、動物、ささぶね、やじろべえなど個性あふれる作品に仕上がった。

2年生では、地域で受け継がれてきたさまざまな遊びを名人さんと触れ合いながら楽しみ、まりつきやけん玉、あやとり、こま回しなど友だち同士で工夫して遊ぶこともできた。



第3, 4学年 「昔の暮らし」「身の回りのごみ」

3年生では、地域の名人さんから「福田の暮らし」について聞き、昔の暮らしや地域の様子や現在の自分たちの暮らし等について考えた。

4年生では身近なごみについて知り、過ごしやすい学校や地域にするにはどうすればよいか考え、自分たちでできる活動をした。その中で、市の環境ゴミスクールに参加して、パッカー車への積み込み体験をしたり、ゴミの減量化等について話を聞いたりして学びを深めていった。



第5, 6学年 「福田の農業」「地域の歴史」

5年生では、地域の名人さんからお話を聞き、福田の農業の現状と課題について

知った。さらに地域の方の田を借り、田植え・稲刈り体験をしたり、自らもバケツ

でイネを育てたりした。間近で稲の生育を観察し、収穫した米を食すことを通し

て、豊かな食生活を支える地域の営農者の苦労やこれからの農業について考えた。

6年生では、地域の名人さんとともに福田の史跡を訪ね、ふるさとに残る歴史的

な財産について学んだ。そしてそれを保護し、後世に残していくために何ができるか考え、行動した。



3. 特徴的な活動事例の紹介

5年生「福田の農業」—つなぐ 人 地域 未来へ—

「ふるさとである福田の地域の特性や人々の工夫や努力を知り、体験を通して興味をもったことを、継続して調べ、伝える力を育てる。そして、ふるさとのよさを将来にわたって、存続させるためにできる事を考え、実行しようとする態度を育てる。」を目標とする活動である。

まず、地域の方から地域の農業の様子について教えていただいた。次に、地域の方のご厚意により実習田で実際に田植えや稲刈りの体験活動に取り組んだ。田に足を初めて踏み入れる子どもも多く、新鮮な感覚を楽しんだようだ。

さらに、ベランダで一人一株イネを育てた。その際、JAの専門家の方から継続的に栽培について教えて頂いた。子どもたちは

身近でイネの生長を観察したり、世話をしたりする事ができ、その中で様々な気付きや新たな疑問をもったようだ。

また、自分たちがベランダで育てた米は、脱穀やもみすりまで自分たちの手で行った後、家庭科の調理実習で食した。自分たちが苦労して栽培し、手間を掛けたお米の味を心からおいしいと感じたようだ。

今後は、活動を通して関心をもった農業や環境の問題等について、さらに調べ学習を続け、自分たちにできる事を考え、まとめたことを発表する予定である。

4. 本年度の成果と課題

○成果

・学校としての成長

本校では以前から地域の「名人」と言われる方々との体験活動を大切にした学習を展開してきた。しかし、名人さんの高齢化により、持続が危ぶまれる活動も少なくない。そこで、伝統行事を体験する活動に地域の保護者の参加を呼びかけた。世代のすそ野を「広げ」「つなぐ」事によって、体験学習をこれからも持続できるようにするとともに、技能や文化そのものを地域の若い世代の保護者にも広げたいと考えている。

さらに、5年生の取り組みに挙げたように、名人さんとの体験学習を大切にしつつ、課題を解決する方法の1つとしてJAのような専門機関と子どもの学びを「つなぐ」ことをこれからも考えていきたい。

・子どもたちの成長

地域の人たちと触れあうなかで、人と人のつながりを考えたり、温かく見守ってくださっている方への感謝の気持ちを強く抱いたりすることができた。また、自らが地域に目を向けることで、未来における理想の地域社会を考えることができた。そのために自分たちが今からできることを実践したりすることができた。自らが学んだ事と地域の特性を考え合わせることで、地域の環境を守ることはとても大切であると実感した。

また、本年度はESDに関するユネスコ国際会議へのパネル参加・メッセージ作製、書き損じはがきを集める活動を行う中で、地域から世界へ視野を広げることができた。

○課題

どんな態度や技能を身に付けさせ、未来を生き抜く子どもたちを育てるのか、という観点で活動を再点検する必要がある。今後も、問題解決型の学習指導を重視し、子どもたち自らが問題に向き合い、協同して諸問題に取り組んでいくことのできるように学習を進めていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）